

外部形態でケリの性判定はできるか？

○脇坂英弥(日本野鳥の会サンクチュアリ室)・中川宗孝(巨椋野外鳥類研究会)・脇坂啓子・伊藤雅信
(京都工芸繊維大学)

鳥類の二次性徴はさえずり, 羽色, 体サイズに表現されるが, 世界に生息する鳥類の約半数が外見で性を判断できないといわれている. 演者らはケリの繁殖生態の研究を進めているが, 本種も外見での性判定は難しく, 研究に支障をきたしていた. 2004 年度の本大会では, ケリの翼爪長と肉垂長に性的二型性が示されることを報告したが, 今回, さらに成鳥個体を捕獲してサンプル数を増やし, 1) 性的二型性の再検証, 2) 外部形態での性判定法の確立, 3) 性淘汰の関与についての検討を目的に調査をおこなった.

調査地は京都府南部の城陽市, 宇治市, 京田辺市, 久御山町の農地で, 2002~2005 年の繁殖期にトラップによって抱卵中の成鳥個体を捕獲した. 個体ごとに環境省の標識調査用の足環装着と形態計測(全長, 自然翼長, 尾長, 翼爪長, 全頭長, 嘴峰長, ふしよ長, 肉垂長, 体重), 採血をおこない, 捕獲場所で放鳥した. 次に血液からDNAを抽出し, CHD遺伝子をもちいた分子性判定をおこなった. 遺伝子構成から明らかになった性と形態計測値を比較解析した.